

エルサルバドル政治経済月報 (2026年6月)

2026年6月
在エルサルバドル大使館

内政

1 ホセ・シメオン・カニェス中米大学（UCA）による世論調査（大学HP、報道）

6月23日、ホセ・シメオン・カニェス中米大学（UCA）世論調査機関は、5月15～26日に1,271名を対象に実施したブケレ政権第7年目の評価に関する世論調査の結果を公表した。

ブケレ政権（7.92）、大統領（8.24）への評価は引き続き高水準を維持している。治安対策への評価が特に高い一方、経済問題は依然として主要課題として挙げられた。大統領への信頼は約7割が「信頼」と回答。次期大統領選への再出馬については約8割が賛成。

例外措置体制への支持は依然高く（評価8.12）、約7割が継続を支持する旨回答した。国の未来には約8割が希望を抱いており、移民の意思は13%にとどまる。

2 2027年総選挙：ブケレ大統領の再選に向けた党内選挙への登録等（報道）

（1）与党・新思想党（NI）

6月28日、ハビエル・ザブラー新思想党党首は、ブケレ大統領及びウジョア副大統領が、次期大統領選挙に向けて党内選挙に登録した旨、SNSにて明らかにした。また、ドゥラン・サンサルバドル中央市長も再選に向け、カストロ議会議長、カジェハス第一副議長他、クリスティアン・ゲバラ議員、エリサ・ロサレス議員、デニス・サリーナス議員、カレブ・ナバロ議員等、サンサルバドル県選挙区選出の議員も再選に向けて登録した。

（2）国民団結党（PCN）

6月28日、PCNはサンサルバドル県の2,000人以上の党員を招集し、議会議員、市長及び市議候補者リスト承認のための党内選挙を実施した。

外交

1 次期駐エルサルバドル米大使の指名（報道）

6月1日、トランプ大統領は、新たな外交人事の一括指名を発表し、エルサルバドル、エクアドル、パラグアイ、ブラジルの各国駐在大使候補を指名した。これらの指名は、上院の承認を必要とする。

エルサルバドル大使として、フロリダ州の実業家マーク・アブレウ氏が指名された。同氏は、2024年の大統領選挙の際に共和党の資金調達担当の一員として名を連ねていた。アブレウ氏は、トロイ・エドガー国家安全保障省次官補に次ぐ、二人目の候補者となる。駐エルサルバドル米大使は、2025年7月のダンカン大使の離任から空席となっている。

2 デラエスプリエジャ・コロンビア大統領候補に対する祝意（大統領府SNS）

6月21日、エルサルバドル大統領府は、公式Xにてデラエスプリエジャ・コロンビア大統領候補に対する以下の祝意を掲載した。

「エルサルバドル政府は、デラエスプリエジャ氏がコロンビア共和国大統領として選出されたことに祝意を表明する。

この新たな段階での成功を祈念し、両国間の友好と協力の絆を強化するという我々の意思を再確認する。」

3 ベネズエラにおける震災被害に対するブケレ大統領による人道支援の申し出（大統領SNS）

6月24日、ベネズエラにて発生した震災被害を受け、同日、ブケレ大統領は、連帯の意と支援を申し出るメッセージを自身のXに投稿した。同日、ロドリゲス・ベネズエラ大統領代行は、ブケレ大統領のメッセージを引用し、謝意を表明し、支援受け入れをベネズエラ外務省に指示した旨投稿した。

6月25日以降、ブケレ大統領は、飛行機に乗り込む救援部隊及び積み込み準備がされる物資の動画やベネズエラに到着した救援部隊の動画と共に、ベネズエラに対する支援の状況に関する内容を複数回投稿した。

合計で、飛行機6機、救助隊員300人、装備と物資150トンの支援を発表した（後日、追加支援も実施）。

経済

1 ILOショートリストからのエルサルバドルの除外（労働省プレスリリース・報道）

6月2日、エルサルバドル労働省は、スイス・ジュネーブにて開催された第114回国際労働会議において、エルサルバドルは個別審査案件リストに掲載されず、所謂「ショートリスト」から除外されたとするプレスリリースを発出した。カストロ労働大臣は、同リストからの除外は、対話の強化、労働者の権利の尊重、異なる生産部門間の合意形成におけるエルサルバドルの進展が国際的に認められたものであると指摘した。また、この結果が、国際社会におけるエルサルバドルのイメージを強化し、投資への信頼を高め、同国の経済及び労働の発展の新たな段階につながると強調した。

2 UNESCO「AI準備度評価報告書」エルサルバドル国別レポートの発表（UNESCO）

UNESCOは、最新の「AI準備度評価報告書」国別レポートを発表し、エルサルバドルの取組を中米地域において先駆的であるとして高く評価した。AI関連法承認及び国立AI庁（ANIA）の設立による法的整備、電気・通信インフラは優位にあり、公的セクターでのAI導入が進んでいる一方、AI開発への投資がGDP比0.14%に過ぎない点、また都市部と農村部のインターネット利用率の格差等が課題として挙げられた。

3 第9回KiboCUBEプログラムへのキー・インスティテュートの採択（外務省プレスリリース）

エルサルバドルのクリエテ理工学研究所（Instituto Kriete de Ingenieria y Ciencias：キー・インスティテュート）は、国連宇宙部（UNOOSA）と宇宙航空研究開発機構（JAXA）が共同開発した第9回KiboCUBEプログラムに選定された。公募結果は、UNOOSA、JAXA、日本政府、加盟国の代表団が参加した第69回国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）のサイドイベントで発表され、17か国21機関からの過去最多80件の応募から、キー・インスティテュート及びタイのチュラロンコン大学の2件のみが選ばれた。このプログラムの一環として、エルサルバドルのチームはCAREY衛星を開発する。このミッションは、地球周辺の宇宙環境の研究、宇宙放射線レベルの測定や地球磁場の変化の監視を目的としており、得られた情報は、中米地域に影響を与える宇宙環境に関する科学的知見に寄与し、宇宙ミッションのあらゆる段階における実践的な経験をエルサルバドルの若手研究者に提供する。

4 ソブリンAIのためのエルサルバドル人合成ペルソナのデータセットの公開（国立AI庁SNS）

6月3日、エルサルバドル国立AI庁（ANIA）は、NVIDIAおよび中南米におけるソブリンAIのリーダー企業であるWideLabs社との協力により、「Nemotron-Personas-El-Salvador」を発表した。これは、エルサルバドルの公式統計に基づき、エルサルバドル向けに特化して構築された初の公開合成ペルソナデータセットであり、個人の実際のデータを使用することなく、AIエージェントの構築・テストが可能となる。同データセットはHugging Face上で公開され、開発者、大学、スタートアップ企業は、CC BY 4.0ライセンス下で無料で利用し、開発を進めることができる。

5 乳製品衛生生産促進法改正（報道）

6月16日、議会は、粉乳から生産された乳製品の販売を可能とする乳製品衛生生産促

進法の改正を承認。同規定は1960年から継続しており、中米地域において当該規定が残っていたのはエルサルバドルのみとなっていた。

6 IDBグループ「成長するエルサルバドル（El Salvador Crece）」プラットフォームの立ち上げ（IDB）

6月17日、米州開発銀行（IDB）グループは、エルサルバドル政府とIDBグループが協力し、エルサルバドルの経済成長と民間投資の促進に取り組む「El Salvador Crece（成長するエルサルバドル）」プラットフォームの立ち上げを発表した。この発表は、「成長するエルサルバドル：成長加速のための投資」イベントにおいて実施され、注力テーマとして、マクロ経済の安定、住宅・都市開発、中小零細企業セクター、持続可能な観光開発、投資誘致の取組みが挙げられた。

7 エルサルバドル国際空港到着ターミナルの拡張（大統領府SNS）

6月23日、エルサルバドル国際空港の拡張された到着ターミナルが披露された。面積24,000㎡、エルサルバドル港湾空港運営委員会（CEPA）の資金5,000万ドルの投資によるもの。入国管理カウンターでは1人あたり30秒～1分間で対応し、飛行機を降りてから空港を出るまでの所要時間30分以内を目指す。ファミリー・フレンドリー（子ども連れ優先ラインや授乳室等）や麻薬探知犬ロボットを導入、効率性と快適性を高めて観光客を迎える。

8 ラ・ウニオン港再活性化の進捗（報道）

6月23日、当地主要各紙は、カント太平洋港湾連合（UPDP）所長によるコメントを掲載。ラ・ウニオン港の再活性化について、既に20台の重機が装備されており、今後2か月以内に2台のクレーンが配備されると述べた。また、現在7.5mである最大喫水制限は、10.5mに拡大予定であると述べた。

9 首都圏ロープウェイ敷設プロジェクト（ディアリオ・エルサルバドル紙）

6月30日、当地主要紙ディアリオ・エルサルバドルは、公共事業省（MOPET）が、サンサルバドルのディアゴナル・ユニベルシタリア通り沿いで、全23本で構成される計画のロープウェイを支える支柱設置を開始した旨報道した。

本件は首都圏交通の選択肢拡大と渋滞緩和を目的とする1号線であり、メヒカノス地区と歴史地区の接続改善を図るもので、約20万人が恩恵を受け、移動時間は約1時間から約14分へ短縮見込みである。輸送能力は日量4万人、システムは100%電動でCO2排出なし、路線延長は約3.5キロ、駅は4か所（Melher工場付近、エルサルバドル大学（UES）前、政府庁舎付近、プリメロ・デ・マヨ病院付近）である。運行用キャビンは153基を配備し、需要に応じた増設も可能とする計画である。